

## II 教育研究の内容・方法等

### 1 開設授業科目における専兼比率

(表3)

学部・学科			必修科目	選択必修科目	全開設授業科目	
医学部	医学科	専門教育	専任担当科目数 (A)	83	0	88
			兼任担当科目数 (B)	0	0	0
			専兼比率 % $(A / (A + B) * 100)$	100%	-	100%
		一般教育	専任担当科目数 (A)	26	4	34
			兼任担当科目数 (B)	0	6	9
			専兼比率 % $(A / (A + B) * 100)$	100%	40%	79%
保健医療学部	看護学科	専門科目	専任担当科目数 (A)	58	7	77
			兼任担当科目数 (B)	0	0	3
			専兼比率 % $(A / (A + B) * 100)$	100%	100%	96%
		一般教育科目	専任担当科目数 (A)	2	0	22
			兼任担当科目数 (B)	0	0	13
			専兼比率 % $(A / (A + B) * 100)$	100%	-	63%
	理学療法学科	専門科目	専任担当科目数 (A)	57	7	77
			兼任担当科目数 (B)	5	0	5
			専兼比率 % $(A / (A + B) * 100)$	92%	100%	94%
		一般教育科目	専任担当科目数 (A)	4	0	22
			兼任担当科目数 (B)	0	0	13
			専兼比率 % $(A / (A + B) * 100)$	100%	-	63%
	作業療法学科	専門科目	専任担当科目数 (A)	55	4	76
			兼任担当科目数 (B)	3	0	4
			専兼比率 % $(A / (A + B) * 100)$	95%	100%	95%
		一般教育科目	専任担当科目数 (A)	4	0	22
			兼任担当科目数 (B)	0	0	13
			専兼比率 % $(A / (A + B) * 100)$	100%	-	63%

- [注] 1 この表は、大学設置基準第10条にいう「教育上主要と認める授業科目」についての専任教員の担当状況を示すものです。
- 2 ここでいう「専任担当科目数」には、他学部・大学院研究科・研究所等の専任教員による兼任科目も含めてください。
- 3 「専門教育」欄および「教養教育」欄は、大学の設定する区分に応じて名称を付してください。その場合であっても、おおよそ専門教育的な教育と教養教育的な教育に分けて記入してください。
- 4 「全開設授業科目」欄には、「必修科目」「選択必修科目」のほか、「選択科目」「自由科目」など、すべての授業科目数の合計を記入してください。「必修科目」と「選択必修科目」の合計ではありません。
- 5 同一科目を週2回実施している場合の計算方法は下記の通りです。  
 ①同一講師による場合→専任教員が担当した場合は専任担当科目数1、兼任教員が担当した場合は兼任担当科目数1となります。  
 ②複数教員による場合→専任教員が担当した場合は専任担当科目数1、専任教員と兼任教員がそれぞれ担当した場合は、専任担当科目数0.5、兼任担当科目数0.5となります。
- 6 実験・実習等において兼任教員を含む複数の教員が担当する場合は、人数比による数値を記載してください（例：専任4人、兼任1人で担当の場合は、専任0.8、兼任0.2となります）。